

【会議録】

主 題 平成30年度 第3回つくばみらい市地域公共交通会議

- 日 時：平成30年11月27日（火）午後1時00分～
- 場 所：つくばみらい市役所伊奈庁舎 3階 大会議室
- 出席委員：伊藤正実会長，秋山義継副会長，久保田博文委員（代理：島田敏次氏），武藤成一委員，谷田部正利委員，白鳥治代委員，荒井栄司委員，下鳥百合子委員，染谷礼子委員，山崎將義委員（代理：滝本真弓氏），上野好男委員，高橋幸司委員，小林寛明委員，中澤正登委員 井波進委員 以上15名
- 欠席委員：富澤雄一委員，皆川誠司委員，富山和之委員，澤島政志委員，鬼沢秀通委員，小川一成委員，山野井周一委員，松本譲二委員，渡来真一委員 以上9名
- 事務局：市長公室 石神公室長，
みらいまちづくり課 木川課長，大山課長補佐，渋谷係長，
㈱アルメックVPI 内山征，和田早永
- 傍聴人：1名

●次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議題
 - (1) コミュニティバスの再編案について
 - (2) コミュニティバスの更新等について
 - (3) 病院バス事業について
 - (4) その他
- 4 閉会

●議事要旨

議題

- (1) コミュニティバスの再編案について
 - ・コミュニティバスの再編案について説明し，了承された。
- (2) コミュニティバスの更新等について
 - ・コミュニティバスの更新等について説明し，了承された。
- (3) 病院バス事業について
 - ・病院バス事業について説明し，了承された。
- (4) その他
 - ・次回の会議開催は12月または1月を予定する。

●議事録

1 開会（午後1時00分）

2 会長あいさつ

3 議題

(1) コミュニティバスの再編案について

- ・コミュニティバスの再編案，茨城県の地域公共交通に関するデータについて説明し，了承された。

【質疑等】

委員意見：コミュニティバスは路線バスの空白地域を運行するものであり，市の公共交通インフラとしてどのように考えるかが重要であるため，赤字額よりも地域住民にどのように利用してもらえるかを考えて運行するべきである。

事務局：つくばみらい市地域公共交通網形成計画に位置付けた通り，幹線交通である鉄道や路線バスを補完する公共交通としてコミュニティバスやデマンド交通，市外への病院バスを考えている。近年のみらい平駅周辺の人口増加や小絹駅周辺の住宅地の高齢化に対応する路線バスとコミュニティバスのネットワークを形成するため，今回具体的な運行内容を提案した。

副会長：どのくらいのコストがかかっているかを説明したのだと思うが，赤字が強調されすぎていたと感じた。交通弱者を救うということも含め地域社会のインフラとしての価値が，赤字であっても相当の利益に値するというを金額だけでなくきちんと整理する必要がある。今後発生する需要に対応する新たな公共交通を用意する過渡期であることを理解してほしい。数字だけでなく，全体的に見てほしい。

委員意見：茨城県の平均支出額のデータが説明されたが，市町村によって人口分布や電車やバスの運行状況，財政状況が異なり，それぞれの市町村で最適な支出額があるため，平均では計りにくい。

コミュニティバスは，ターゲットを明確にし，そのターゲットに乗ってもらえるようにする工夫が重要となるが，この案のターゲットを具体的に説明してほしい。

事務局：地区内で基本的な生活が完結できるように地区内ルートを設定し，地区外への移動にも対応できるように地区間ルートを設定している。朝夕は通勤者の住宅から駅までの移動をターゲットとし，地区内ルートを充実させ，日中は生活者の日常の移動をターゲットとし，地区内ルートと地区間ルートを運行するダイヤ案としている。

委員意見：利用者数が増える想定でいるが，その目安は何か。つくばみらい市は人口集積されていない地域もある。人口密度の低い地域を運行し，乗客数の少ないコミュニティバスも多くあり，そのようにならないか。

事務局：地区内ルートは人口の多い地域で高頻度に運行する設定としている。一方，地区間ルートは人口の少ない地域も通るため，頻度は少なくし，最低限の移動手段を確保するようにしている。

委員意見：需要予測の数字が高いと後で達成が厳しくなるので，精査してほしい。

副会長：利用者数をどのように高めるかを考えてほしい。

公共交通はまちづくりの基本であり，将来のまちづくりとして必要であるという地域の社会的便益と費用負担をあわせて考えることが望ましい。高齢化により将来地域の交通弱者が増えると想定されるので，地域の年代のバランスを考慮して公共交通体系を作してほしい。

他市町村で空気を運んでいるバスを見ると，なぜ，地域の意見を聴いて定期的

にルートや時刻表を変えないのか疑問に思う。

事務局：つくばみらい市の人口あたりの利用率の実績値を用いて需要予測をしており、目標値に近い。今年度の後半は公共交通網形成計画にも載せている利用促進策についての議題もある。利用促進策を進めていかないとこの目標値は達成できないと思っている。

利用の多いところを運行しないと利用者は確保できないという話があった。3案持ってきたので意見を出してもらえると助かる。

委員意見：守谷市でもバスの再編を行っている。(仮称)小絹ルートと(仮称)谷井田ルートは守谷駅手前のルートが重複しているので、カワチやヨークベニマルの前を通るルートにしてはどうか。

事務局：(仮称)小絹ルートの守谷駅～小絹駅区間は、現在沿線企業の通勤利用があるので、朝夕のみの運行を考えている。日中は常総線を利用してもらおう想定である。

委員意見：朝夕の時間帯を教えてほしい。

事務局：朝は8時台、夕方は18時頃に通勤帰宅できるようにダイヤを考えている。

会長：委員から出た意見を反映した修正案を次回公共交通会議に提出してほしい。

(2) コミュニティバスの更新等について

- ・コミュニティバスの更新等について説明し、了承された。

【質疑等】

委員意見：導入スケジュールで、新型車両を1度に5台入れないのはなぜか。

事務局：市の財政支出の平準化を図るために、1台の導入時期を平成33年4月にずらしている。現行車両のうち1台は故障しがちで稼働率が76.4%と低く、早めに交換する必要があり、新型車両導入と同時での交換としている。

会長：車両の更新は日野ポンチョショート4台をスケジュールに合わせて導入するという事で会議の意思統一を図りたい。

委員意見：日中に車いすの方の利用があるかもしれないので、ポンチョとすることは理解できるが、日中は利用者数が少ないのでこの車両ではもったいないように感じる。

副会長：公共交通は朝夕のピークにあわせて車両を用意し、日中は能力が余るという特徴があるので、費用がかかることを理解してほしい。工場で生産する製品の場合、需要が少ない時期でも生産し在庫として蓄え、需要が増えた時点で提供することができる。しかしながらバスの場合、その瞬間瞬間でサービスを提供するので、日中の空いている時間帯のサービスを朝夕の混雑時に振り分けることはできない。そのため、混雑時の需要にあわせた車両の大きさとする必要がある。地方の公共交通は儲かる事業ではないので市民の理解が必要である。今後交通弱者が増える可能性がある。福祉面でも年配の方が移動すると医療費が減るというデータがある。若い方にとっても移動可能性を市が保障しないと、魅力あるまちづくりにならない。

委員意見：公共交通が充実することは嬉しいが、市の財政を圧迫しないか心配で意見した。

会長：車両の更新は日野ポンチョショート4台をスケジュールに合わせて導入するという事で会議の意思統一を図りたい。ご異義あるか。

全員：異議なし。

会長：異議なしということで、事務局提案通り決定する。

(3) 病院バス事業について

- ・病院バス事業について説明し、了承された。

【質疑等】

委員意見：居住地区によって病院が限定されるのではないか。

事務局：居住地区から直接シャトルバスで行ける病院は限定されるが、別地区の病院に

行きたい方には該当地区の拠点まで各々の交通手段で来てもらうことで通院できるようにすることを考えている。コミュニティバスやデマンド等をできるだけ使えるようにし、スモールスタートすることを考えている。

副会長：シャトルバスは良いアイデアである。路線バスを大事にすることが第一である。シャトルバスの運行により通院先を変える方もいると考えられ、通院先に偏りが出る可能性もある。経過を見つつ、様々な細かい点も考慮して実験してほしい。

(4) その他

- ・次回の会議開催は12月または1月を予定する。
- ・コミュニティバスの再編案については、意見を踏まえ再度事務局で調整し、次回会議でパブリックコメントに向けた素案を示す。

●配布資料

- (1) コミュニティバスの再編案について
- (2) コミュニティバスの更新等について
- (3) 病院バス事業について

参考資料 茨城県の地域公共交通に関するデータ